地域づくり表彰

白山瀬波の会（石川県白山市）

住民と企業の連携による里山振興！

白山瀬波の会

会長

にしはら　ひでゆき
西原　秀幸



１．地域の概要

【白山市の概要】

白山市は、県都金沢市の南西部に位置しています。2005 年 2 月 1 日、1 市 2 町 5 村の合併により誕生しました。白山国立公園や、県内最大の流域を誇る一級河川手取川、白砂青松の日本海など、山・川・海の豊かな自然に恵まれた地域であり、海岸部から山間部まで、およそ 2,700m の標高差があります。

白山市では、こうした地域資源を保全しながら教育や地域振興に活用するジオパーク活動を推進しており、「白山手取川ジオパーク」は、2023 年5月24日ユネスコ世界ジオパークに認定されました。



水の流れによって形成された多彩な地形

【瀬波地区の概要】

瀬波地区は、。終戦後 80 世帯 500 人以上の住民が生活し、炭焼きを中心に生業としていた地域でしたが、現在では人口 33 名となり、高齢化率は 9 割に達しています。

この典型的な「限界集落」にあって、地域コミュニティの形成も難しく、いずれ「無住化地区」となり、「地区消滅」の危機が、大きな課題となっています。

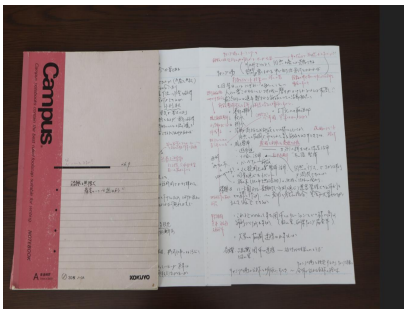
一方、瀬波川を中心に山奥深く、冬には積雪２m 以上に達する豪雪地帯ではありますが、その分豊富な自然に囲まれた地区となっています。

２．活動開始の背景・経緯

当会は、1 冊のノートから始まりました。

当時、地方銀行役員であった現副会長が、約 30 年間放置されてきた、「廃道となった登山道」と「廃業したキャンプ場」に早くから着目し、「瀬波地区をどうしたら残せるか」をテーマに、「地域再生構想」を一冊のノートに書き続けてきました。

そのノートに注目した現会長は、勤務先の親会社が企画する「地域活性化コンペ」に、ノートに書き残した「地域再生プラン」をもとに提案し、優先順位が高い新事業として選ばれました。



書き溜めていたノート

３．団体の設立

新事業に認定されたことで、企画した大手企業（現会長の会社）から 8 割の出資を得て、残り 2 割を瀬波地区関係者 11 名が出資することで、キャンプ場運営を中心とした「株式会社白山瀬波」を 2015 年 10 月に設立しました。

そして翌年、交付金・補助金等を有効に活用した登山道整備に向け、非営利の任意団体「白山瀬波の会」を 2016 年３月設立しました。

４．活動の内容

【廃道となった登山道の整備】

瀬波地区は山林に囲まれており、自然豊かなため、廃道を整備することで交流人口が増え、賑わい創出が図られると考え、約 30 年放置されてきた廃道に着手しました。



廃道となっていた登山道の整備

2016 年 4 月より 6 年間登山道の整備を続けた結果、国内最大規模（約 3ha）と言われる、カタクリ群生地が出現しました。

開花時期（春 3 月下旬）には約 3,000 人もの登山者と見物者で賑わう人気スポットとなっており、その様子は登山者等によって多数の SNS や登山アプリ等を通じ、数多く全国に発信されています。



カタクリ群生地



登山客で賑わうオンソリ山

【キャンプ場の再生】

登山道同様、瀬波地区に残されていた、廃業したキャンプ場を再生することで、瀬波地区への賑わいへと繋げました。

キャンプ場を再開した 2016 年は、利用組数が 45 組でしたが、2023 年には 689 組まで増加し、リピート率の高い人気キャンプ場として生まれ変わっています。



キャンプ場の様子

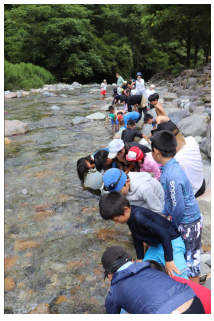
また、キャンプ場では様々なイベントが開催され、多くの子供たちにとって自然と触れ合う貴重な場所となっています。

特に石川県キャンプ協会主催のキャンプフェスティバルでは、県内外より毎年 200 人近くの親子が集い、川遊び等の自然に親しまれています。



キャンプフェスティバル集合写真

また、河川の環境悪化の影響により全国的に減り続けている、カジカ（通称：ごり）の稚魚の放流活動を長年続けており、ジオパークの理念に沿った活動として、子供たちの生涯学習活動の機会を提供しています。



鮴（ごり）の稚魚放流

【地域雇用の創出】

メインとなる登山道整備やキャンプ場の運営以外にも、地域づくり活動を通じ、常に雇用の創出に努めています。

１点目は登山やキャンプ場を訪れる方々の環境保全・維持を図る目的で、通年実施する草刈活動です。高齢者の方々に従事いただくことで、収入の確保を支援しています。

2 点目はキャンプ場近くにある温泉施設への野菜・山菜の販売です。ここでは、地域の農家が育てた作物を、当会が仕入し販売しており、生産者の生きがいにも繋がっています。

他にも増え続ける空き家を紹介するなど、地域の賑わい創出の活動を行っています。



草刈活動



野菜・山菜の販売

５．企業との関係性

活動を継続する上で必ず課題となる資金面については、団体設立以来、支援企業から引き続き支援を頂いています。

企業からの支援の理由は、当会の「地域活性化」活動が評価され、幅広く認知されたことで、支援企業グループ全体の CSR 活動となり、イメージ向上による企業価値の向上に繋がると判断されているためです。

６．成果

これまでに整備した、登山道やキャンプ場が再生できたことで、瀬波地区を訪れる交流人口は活動 10 年間で格段に増え、地域の賑わいに大きく貢献しています。

そして活動当初と比べると、地域住民や地域の出身者から、瀬波地区の賑わいに対する感謝の言葉をいただく機会が増えたことに喜びを感じています。

当初は、地元から「今さら何をするのか？」と言った否定的な意見もありましたが、今では地元が一つとなった支援をいただけることが、10 年間の最大の成果だと思っています

７．課題と展望

とはいえ、この賑わいを継続・発展させるための大きな課題が、担い手不足です。

瀬波地区には、将来の担い手となる人材は期待できず、地区外から当会の活動に携わってくれる人を増やす必要があります。

そのため、更なる企業との連携強化や空き家対策、新たなキャンプ場エリアの創設（＝子どもの森構想）等を実現させることで、より瀬波地区を訪れる人々に、魅力を提供し、地域の価値を高める環境づくりが重要であると考えています。

このような中、2024 年 10 月には瀬波地区にある笈山が、ある民間雑誌に「日本百低山」の一つとして紹介されました。

このように１つ１つ小さな活動を重ね続け、新たな「地域づくり」に繋がる里山振興を引き続き行っていきたいと思っています。



日本百低山に選ばれた
笈山（おいずるやま）から見た景色